平成２９年度新隊員入隊

～道内では約１，１５０名～

東千歳駐屯地
（第７特科連隊）

名寄駐屯地
（第３普通科連隊）

滝川駐屯地
（第１０普通科連隊）

一般曹候補生 自衛官候補生が 道内各地で入隊式

真駒内駐屯地
（第１２０教育大隊）

釧路駐屯地
（第２７普通科連隊）

幌別駐屯地
（第１３施設群）

北千歳駐屯地
（第１特科群）

北部方面隊（総監山崎陸将）は、４月８日、９日及び17日、方面隊の各駐屯地において第９期一般曹候補生及び平成29年度自衛官候補生の入隊式を行った。

隊員達は、入隊式のおよそ１週間前に着隊し、教官・助教の指導の下、敬礼や行進等の基本教練を体得して、この入隊式に臨んだ。

式では、家族や知人、協力団体及び各地方協力本部の関係者が見守る中、初々しくも堂々たる行進や基本教練を披露するとともに、同期一丸となり、声高らかに服務の宣誓をし、陸上自衛官としての一歩を踏み出した。

また、各部隊ごと趣向を凝らした太鼓演奏や音楽隊による演奏を行い、新隊員を激励した。

参列した家族は、ひと時の再会を楽しみ、我が子の成長ぶりに目を見張るとともに、入隊式終了後は、別れを惜しむように駐屯地を後にした。

今年度入隊した新隊員は、一般曹候補生男子約３９０名、自衛官候補生男子約５９０名、女子約１７０名、合わせて約１，１５０名であり、この入隊行事を皮切りに本格的な教育が開始される。

今後約３ヵ月間の教育で陸上自衛官としての基礎を修得し、方面隊内のそれぞれの部隊に配置され、更に約３ヵ月間の特技教育を受ける。

基礎訓練により成長する新隊員たち

基本教練（敬礼動作）

射撃訓練（実弾射撃前の予習訓練）

部隊訓練（隊列を組んでの移動）

あかしや

第７３５号
平成２９年５月９日

方面総監統率方針
任務完遂
方面総監要望事項
使命の自覚
錬磨即応
地域との連携

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面総監部広報室

北部方面隊
ホームページ
http://www.mod.go.jp/gsdf/nae/

統合機動力の構築、大規模災害等に対応

南恵庭駐屯地に第3施設団を新編

北部方面隊は、平成29年3月27日、南恵庭駐屯地において、第3施設団新編に伴う団長旗授与式及び編成完結式を行った。

第3施設団は、統合機動防衛力の構築や大規模災害及び国連平和維持活動（PKO）等の一次部隊として、迅速かつ質の高い活動を実施するため、これまでの北部方面施設隊を強化して新編され、初代団長に鵜居陸将補が着任した。

施設団の新編により、南恵庭駐屯地に施設団本部を置き、幌別駐屯地に所在する第13施設隊を第13施設群へ増強改編、上富良野駐屯地に第14施設群を新編するとともに、南恵庭駐屯地に所在していた第301坑道中隊を上富良野駐屯地へ移駐して、第14施設群の隷下とし、岩見沢駐屯地に所在する第12施設群を含め、総勢約1，600名体制となり、陸上自衛隊の5コ施設団の中で最大の部隊となった。

団長旗授与式で山崎総監は、「伝統を継承し、陸上自衛隊最大の施設部隊としての使命を強く自覚し、常に技術の錬磨に努め、今後与えられるあらゆる任務を完遂できる新生『第3施設団』の創造をめざし、日々精進してもらいたい」と訓示した。

団編成完結式で団長は、「我々は、国民の皆様の負託に応えられるよう、何時如何なる任務にも即応して、あらゆる手段を尽くしてこれを完遂できる強靭な部隊を育成すべく、隊員一丸となってより一層精進していく」と隊員に指針を述べた。

団長旗授与式等終了後、駐屯地隊員食堂において、祝賀会食を行い、関係協力団体をはじめ、部隊OBなど部内外から多数の来賓を招き、施設団の創隊を祝った。

同日、第301坑道中隊は、多くの来賓や駐屯地隊員に見送られ、南恵庭駐屯地を出発し、移駐先である上富良野駐屯地においても多くの関係協力団体の方々に出迎えられ、新たな任務地での第一歩を踏み出した。

団長訓示（団編成完結式）

第3施設団長旗の授与

総監に栄誉礼（隊旗授与式）

協力会の出迎えを受ける移駐部隊

祝賀会食

北部方面施設隊隊旗返還

北部方面移動監視隊新編

倶知安駐屯地に仲間入り

北部方面情報隊（隊長　岡1佐）は、平成29年3月27日、倶知安駐屯地において、移動監視隊新編に伴う隊旗授与式及び編成完結式を行い、初代隊長に新井2佐が着任した。

同隊は、北部方面情報隊の4番目の隷下部隊として新編され、沿岸地域において方面隊等の部隊運用に資する情報収集、監視活動の役割を担う部隊である。

編成完結式で北部方面情報隊長は、「部隊の戦力化を推進せよ」「団結強固にして規律厳正な部隊であれ」「地域に根ざした部隊であれ」の3点を要望するとともに、「本日ただ今より、新井隊長の下、精強な北部方面移動監視隊の練成に邁進してもらいたい」と式辞を述べた。

引き続き、移動監視隊の新たな隊舎の落成式が行われ、隊舎の完成に隊員は重要な任務に対する思いを強くした。

落成式の後、駐屯地食堂において記念会食が執り行われ、協力団体の方々と共に移動監視隊の新編を祝った。

また、4月16日倶知安町内において、倶知安町及び倶知安町自衛隊協力会の共催により、歓迎記念式典が盛大に行われ、地域の方々の期待の高さが伺われた。

移動監視隊は、昭和30年から続く倶知安駐屯地の歴史に、また新たな一歩を刻んだ。

編成完結式

隊旗授与

歓迎記念式典

落成式

第5代北部方面隊最先任上級曹長

准陸尉　遠藤（えんどう）　隆男（たかお）

昭和39年3月22日　生

出身地　福岡県

主要職歴

昭和57年	4月	第1教育連隊入隊
同　57年	6月	第2特科連隊
平成16年	8月	第2特科連隊第2大隊第4中隊　中隊付准尉
同　22年	3月	第2特科連隊第2大隊 最先任上級曹長
同　25年	8月	第2特科連隊 最先任上級曹長
同　26年12月		第2師団司令部付隊
同　27年	8月	第2師団 最先任上級曹長

北部方面隊准曹士の代表として、皆さんの一歩前に出て使命を自覚し、職務に邁進いたします。

第四十九代北部方面総監部幕僚長

幕僚長

陸将補　大庭（おおば）　秀昭（ひであき）

昭和39年3月1日　生

出身地　福岡県北九州市

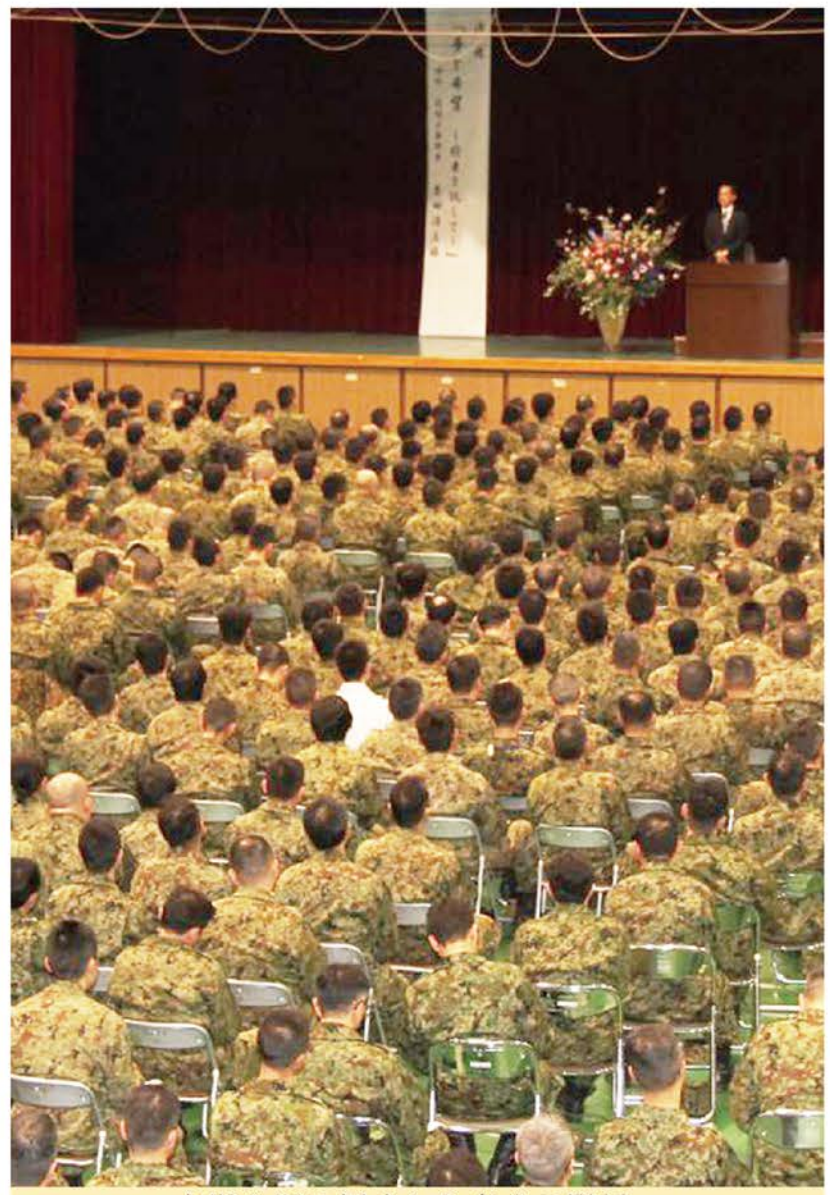
主要職歴

昭和61年	3月	陸上自衛隊幹部候補生学校入校
同　62年	3月	第25普通科連隊
平成　5年	8月	富士学校 普通科部 教官
同　　9年	8月	第12師団 第3部 訓練班長
同　11年	3月	陸上幕僚監部 防衛部研究課 研究班
同　15年	3月	幹部学校 教育部 教官
同　15年	8月	陸上幕僚監部 調査部調査課 中期担当
同　18年	8月	西部方面総監部 防衛部 防衛課長
同　21年	3月	第37普通科連隊長
同　23年	8月	東北方面総監部 防衛部長
同　25年12月		第10師団 副師団長
同　27年	3月	陸上自衛隊 幹部候補生学校長

山崎総監の御心を我が心として幕僚道に徹し幕僚が生き生きと勤務できる環境を作ります。

元陸上幕僚長 岩田清文氏 講話

夢と希望 ～将来を託して～


会場を埋め尽くした多くの隊員

北部方面隊は、平成29年3月27日、東千歳駐屯地において、元陸上幕僚長岩田清文氏（第33代北部方面総監）を講師に招き、部外講話を実施した。

講話は、『夢と希望 将来を託して』と題して実施され、方面総監部から総監以下幹部約140名、東千歳駐屯地及び同周辺駐屯地から各部隊長をはじめ、隊員約880名が参加した。

岩田氏は、我国を取り巻く安全保障環境とそれに伴う陸上防衛構想の変遷、将来の陸上自衛隊のすう勢などを分かりやすく講話された。

特に、隊員に対する勤務の参考として「あるべき姿、ビジョンを明示する」、「現場主義を貫く」、「改革・改善への執念を堅持する」、「意図の徹底は無限と心得る」、「組織、人を使い育てる」、「誇り（戦いのプロ、矜持）を持つ」、「戦（真）友を作る」「感謝の念を持つ」、「悔いなき日々を持つ」の9項目について熱く語られた。参加した隊員は、熱心に聞き入り「機械化連隊の隊員としての心構えとは？」について質問する等、改めて任務の重要性を理解していた。

講話の最後に、『服務の本旨』について、「何時如何なる任務が与えられようとも事態に即応して任務を完遂するとの使命は不変である」と締めくくり、講話を終了した。

岩田 清文 氏

隊員からの質問に答える岩田氏

北海道自衛隊協力団体連絡協議会

平成29年度業務計画等説明会

北部方面総監部は、平成29年4月10日、札幌市内ホテルにおいて、北海道自衛隊協力団体連絡協議会（会長 伊藤義郎氏）に対する平成29年度業務計画説明会を開催した。

本連絡協議会は、昭和44年に設立され、北海道自衛隊協力会連合会、公益社団法人隊友会北海道隊友会連合会、北海道自衛隊退職者雇用協議会及び公益社団法人全国自衛隊家族会北海道地域協議会の4協力団体が加盟し、相互の連携調整、防衛思想の普及啓蒙を目的として、47年の永きに渡りご協力を頂いている。

本説明会は、平成29年度の北部方面隊の各種活動に対する理解と協力を促進することを目的に開催され、各協力団体からは、会長・副会長など役員19名が参加した。

参加した方々は幕僚長からの説明を熱心に聞き入り、北部方面隊に対する理解と協力の資となった。

また、説明会終了後、意見交換会を開催し、自衛隊及び北部方面隊の各種活動等に関する活発な意見交換を行うとともに、終始笑顔で交流を深めるなど、盛会の内に終了した。

説明に聞入る参加者

伊藤連絡協議会会長の挨拶

人生に潤いを与える言葉

“権勢に依阿（いあ）する者は、万古に凄涼（せいりょう）たり”（前集・1）

とあるように、「権勢におもねりへつらう者は、一時的に栄達するが結局は永遠に寂しくいたましい」というのです。
このことを具体的に次のように述べています。

炎に趨（はし）り勢に付くの禍は、
甚（はなは）だ惨にしてまた甚だ速（すみ）やかなり。

（後集・22）

即ち「権力をふるう者にとりいり勢力のある者に付く禍（わざわ）いは、相手が失脚したときには悲惨であり、またその報いも非常に速くやってくる」というのです。
それでは、**どのような生き方が求められる**のでしょうか。

恬（てん）に棲（す）み逸を守るの味わいは、
最も淡にしてまた最も長し。

（後集・22）

即ち「心の安らかさを棲み家とし、気楽な生活をおくる味わいは、きわめて淡白であり、またその楽しみが永続きする」というのです。
つまり「**恬淡清白**（てんたんせいはく）」**な境遇で、安逸**（あんいつ）**・気楽な生き方**にこそ楽しみは尽きることがないのです。

心の健康相談・メンタルヘルス・カウンセラー
根　本　和　雄

北の駐屯地　その歩み

第３２回　近文台分屯地

近文台分屯地（司令 一瀬2佐）は、旭川駐屯地の分屯地であり、札幌市に次ぐ北海道第二の都市である旭川市（人口約34万人）に所在する。

旭川市は、周囲を天塩山地、北見山地、大雪・十勝山地、幌内山地など、北海道を代表する山々に囲まれた盆地で、石狩川をはじめとする多数の川が市内を流れ、「旭川」という名前の由来ともなっている。また、河川に沿って主要国道や鉄道が走っており、道北、道東方面への交通の要衝である。

旭川市は、旧陸軍第七師団の司令部所在地として発展を遂げ、「軍都、旭川」との別名もあり、現在も、「旧偕行舎」（現中原悌次郎記念旭川市彫刻美術館）や、旧陸軍第七師団司令部門柱（現北鎮記念館内）等、当時の面影が数多く残っている。

昭和28年2月、旧第7師団演習場跡地に近文台弾薬支処、小銃射場跡地に近文台燃料支処が建設された。

昭和30年1月、近文台分屯地を開庁し、同年2月28日北海道地区補給処近文台弾薬支処及び近文台燃料支処として編成完結した。

その後、部隊改編、支援担任の変更、本部庁舎、支援施設、管理用施設、警備用施設の建て替え等を経て、現在に至っている。

分屯地所在部隊は、近文台弾薬支処、近文台燃料支処、第301基地通信中隊近文台派遣隊からなり、弾薬支処と燃料支処の安全性の問題から、分屯地の敷地が約2キロ分断されている、全国的にも珍しい分屯地である。

分屯地は、これからも司令要望事項である「協調」の理念のもと、「笑顔と挨拶の絶えない活力ある分屯地」「規律厳正にして清潔感のある分屯地」「地域から信頼され親しまれる分屯地」を目標に掲げ、隊員間の絆の強化はもとより、地域との連携維持・強化に邁進していく。

現在の本部庁舎

開庁時の様子

陸上自衛隊の基準杭となれ！

北方隊員の服装・身だしなみ等の基準ポスターを刷新

北部方面隊は、前方面隊最先任上級曹長（髙橋准尉）の発案により、「北方隊員の服装・身だしなみ等の基準」ポスターを刷新した。

本ポスターは、服装及び身だしなみの基準を示し、隊員の規律維持を図ることを目的として作成されて以来、今回で3度目のリニューアルとなり、制服及び迷彩服の2つの様式で制作している。

今回のリニューアルでは、特に、「自衛官の心構え」及び「5大義務」について強調されている。「①北部方面隊の全隊員が服務の本旨に立ち返る事、②何時如何なる任務にも即応し、これを完遂し得る事、③常に使命の自覚に基づく物心両面の準備を万全にする事、④各級指揮官は、常続的な服務指導をする事、⑤自律心の涵養により、健全で強靭な部隊・隊員を育成させる事」を目的としている。

北部方面隊の隊員は、陸上自衛隊の基準杭として、服務の本旨を体現する強靭な隊員でなければならない。このため、本ポスターを活用して、隊員一人一人が自らを律し、一丸となって任務完遂に邁進する気概を堅持する事が期待される。

新年度の募集について

次世代を担う力を我々で！

募集種目		募集人員（人数は平成28年度）	受付期間
航空学生		海 約70名（女子若干名） 空 約70名（男女の区分なし）	7月1日～9月8日
一般曹候補生		陸 約2,670名（女子約200名） 海 約1,300名（女子約 40名） 空 約 750名（男女区分なし）	7月1日～9月8日
自衛官候補生	男子	陸 約6,050名 海 約1,100名 空 約1,450名	年間を通じて行っております。
	女子	陸 約 570名 海 約 120名 空 約 80名	
防衛大学校学生	推薦	人文・社会科学専攻 約20名（うち女子約5名） 理工学専攻 約80名（うち女子約10名）	9月5日～9月7日
	総合選抜	人文・社会科学専攻及び理工学専攻合わせて約40名（うち女子約5名）	
	一般（前期）	人文・社会科学専攻 約65名（うち女子約15名） 理工学専攻 約235名（うち女子約20名）	9月5日～9月29日
	一般（後期）	人文・社会科学専攻 約10名 理工学専攻 約30名 合計約40名（うち女子約5名）	30年1月20日～1月26日
陸上自衛隊高等工科学校生徒	推薦	約60名	11月1日～12月1日
	一般	約260名	11月1日～30年1月9日

隊員自主募集の推進!!

平成29年度各種募集種目の募集日程が示され、各地方協力本部を主体に、積極的かつ精力的な募集活動が各地域で推進されている。

昨年度まで、隊員による募集活動について『縁故募集』と称していたが、今年度から『隊員自主募集』に変更された。

隊員自主募集については、上のポスターにあるとおり、これまで同様に募集情報の対象者が入隊に結びつけば、その人数により第5級賞詞から第3級賞詞までが授与される。

昨年度は、第3級賞詞を7名、第4級賞詞を14名、第5級賞詞を339名に授与している。

隊員自主募集の成果もあり、昨年度募集目標は、北部方面隊全体として達成する事ができた。しかし、募集対象者の減少には歯止めはかからず、引き続き募集情報の獲得が必要な状況に変わりはない。昨今の新入隊員の入隊動機は、「親戚・友人からの紹介」が圧倒的であり、隊員自主募集の重要性の高さが伺える。

今年度も、部隊ごとに年度目標を定め、方面隊の募集目標達成を目指す。このため、北部方面隊全隊員が広報官となり、「次世代を担う後輩は、自分たちの手で獲得する」という気概で隊員自主募集にあたる。

獲得した情報は、部隊を通じて速やかに各地方協力本部へ情報提供し、部隊と地方協力本部とが緊密に連携して、昨年度より一名でも多くの隊員を獲得する事を期待する。

編集後記

日々刻々と暖かさを増し、雪解けが一気に加速して、道南方面からは「群来（くき）」と呼ばれる春告げ魚（ニシン）の産卵も始まり、北海道にもようやく春の訪れを感じさせる頃となりました。各部隊では、真新しい戦闘服に身を包んだ新隊員たちが、声を合わせ額に汗しながら元気に走り回る姿が見受けられるようになり、日々成長するその姿に頼もしさを感じております。

4月といえば、昨年熊本地震が発生し、方面隊からも人員約4，200名、車両約1，800両が現地へ派遣され、給食・給水・入浴支援など、約1ヶ月の間災害派遣活動を行いました。震災から一年たった今でも、震災の傷跡は生々しく残り、未だに仮設住宅等での避難生活をされている方も数多くおられます。被災地の一刻も早い復興を方面隊隊員一同心よりご祈念いたします。北部方面隊は、引き続き何時如何なる事態にも即応し、事に臨んでは危険をかえりみず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託にこたえられるよう、日々精進してまいります。

今月の一枚